

4 月 17 日 (日) に行われた平成 28 年春期の情報処理技術者試験について、応用情報技術者ほか高度系 5 試験の合格発表がありました。同時に発表された得点分布などの統計データの分析をもとに、プロジェクトマネージャ試験の合格発表コメントをお知らせします。

■プロジェクトマネージャ試験 (PM)

[平成 28 年春期のプロジェクトマネージャ試験 統計情報]

応募者	16,173 人
受験者	10,263 人
合格者	1,491 人
合格率	14.5%

平成 28 年春期のプロジェクトマネージャ試験の合格率は 14.5%で、前回の 13.4%より若干増えました。まず始めに、新試験で従来の午前試験が分割された午前 I と午前 II の試験の分析結果をお知らせします。

(午前 I 試験 (高度試験の共通知識問題))

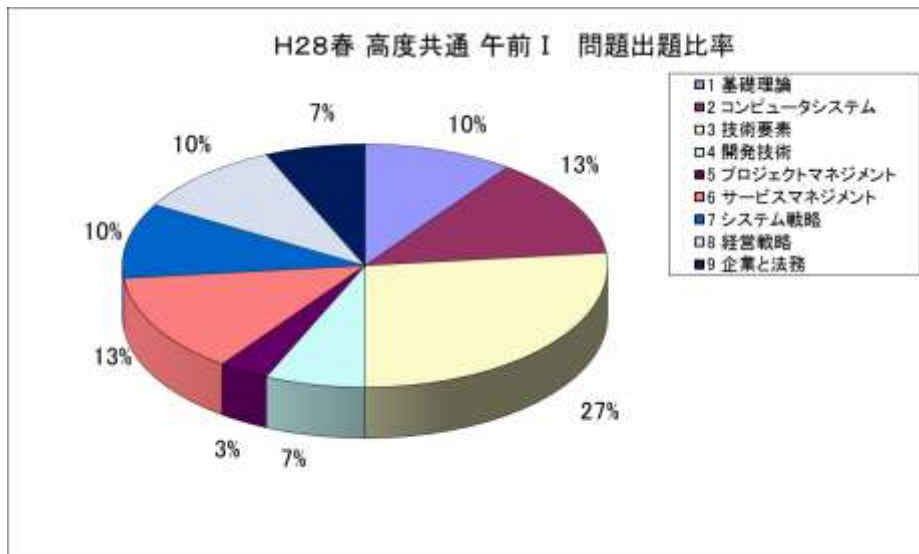
- ・高度試験に共通して出される問題 30 問は、従来どおり、すべて応用情報技術者試験 (AP) から選ばれています。これまで、AP の問題の中でも比較的素直で常識的な問題が選ばれていましたが、基礎理論の計算問題が例年どおり少し難しく、他の分野もこれまであまり出題されていない内容が何問もありました。
- ・過去問題の比率は約 6 割で従来どおりの比率といえます。
- ・分野別の出題比率は前回と同じで、出題範囲の中で 23 ある中分類からまんべんなく出題されていますが、重要な内容 (中分類) からは複数出題されています。現在はセキュリティ分野を重視した出題になっており、出題数は前回と同じ 4 問でした。
- ・新傾向問題は次の 2 問で、従来よりも少ないといえます。

(新傾向問題)

問 5 ライブマイグレーションの概念

問 21 クラウドサービス導入検討プロセスのシステム監査

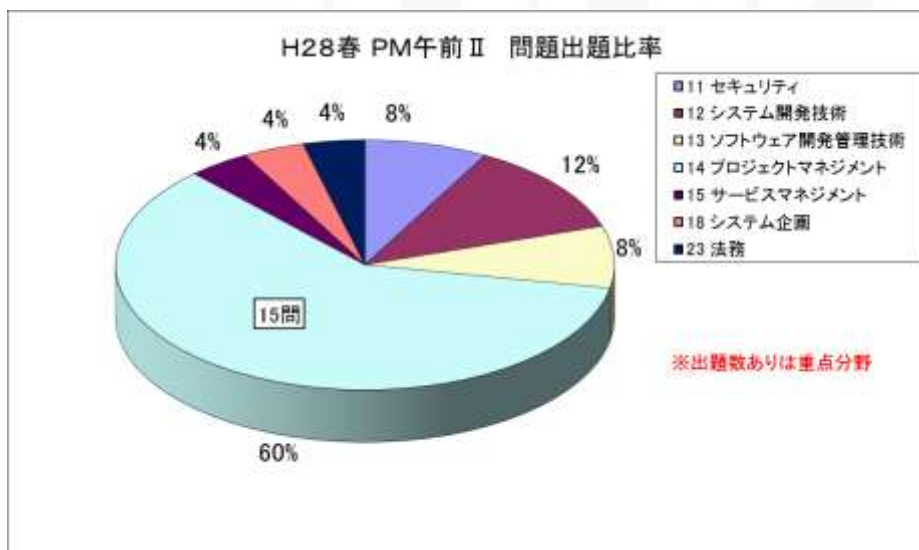
平成 28 年春期の高度試験共通 午前 I 問題出題比率



(午前 II の専門知識問題)

午前 II 試験では、専門分野のプロジェクトマネジメント (PM) 分野で前回と同じ 15 問が出題されています。PMBOK と明記した問題は今回 5 問で、前は 2 問でしたのでかなり増えました。また、セキュリティ分野からの出題数は前回同様 2 問でした (前々回 3 問)。

平成 28 年春期のプロジェクトマネージャ試験 午前 II 問題出題比率



新傾向問題としては、次の問題が挙げられます。

問 5 スコープコントロールの活動

問 24 シャドーIT

次に、午後 I と午後 II 試験の分析結果をお知らせします。

〔午後問題〕

・午後Ⅰ問題の出題分野とテーマは、次のとおりです。新試験では解答数が3問から2問に減りましたが、他の試験と同様に、1問あたりの解答量が多くなっている問題もあり、解答時間の余裕はあまりないと思われます。

・前々回の試験から、午後Ⅰ試験は出題数が3問に減り、選択の幅が狭くなりましたが、問題テーマは分かりやすく、全体に解答しやすい内容でした。

問1 プロジェクトのリスク管理（化学製品製造企業の新設備管理システム） 普通

現作業の問題点、ステークホルダ協力のねらい、要求事項への対応、ビジネス上のリスク、作業員への確認事項、効率向上貢献の確認、回避するリスク、新たな発生リスク

問2 プロジェクトにおけるコミュニケーション（放送事業会社の番組編成支援システム） 普通

前回問題の改善、合意内容、問題解決プロセス、要求事項の解釈、顧客報告の改善、ステークホルダへの依頼見直し、チーム内部の改善、全員で意見を述べる理由、改善内容

問3 プロジェクトの進捗管理及びテスト計画（不動産会社の新人事給与システム） 普通

開発スケジュール、EVM、外部設計進捗状況、各機能の状況把握理由、人事外部設計チームの進捗報告、SPI計算、仕様確定遅れの原因、対策が必要な場合、テスト実施時の確認

・午後Ⅱの論文問題の出題分野とテーマは次のとおりです。

前回の試験から、午後Ⅱ試験は出題数が2問に減り、論文テーマも選択の幅が狭くなりましたが、前回は2問ともオーソドックスなテーマでしたが、今回の出題内容はテーマに関係する経験が求められる内容といえ、記述しづらい人も多かったと思われます。

問1 他の情報システムの成果物を再利用した情報システムの構築について

プロジェクトの特徴、成果物再利用の範囲・方法・決定理由、再利用で期待した効果、有効利用の課題と対策、対策実施状況、工夫点、期待効果の実現状況、今後の改善点

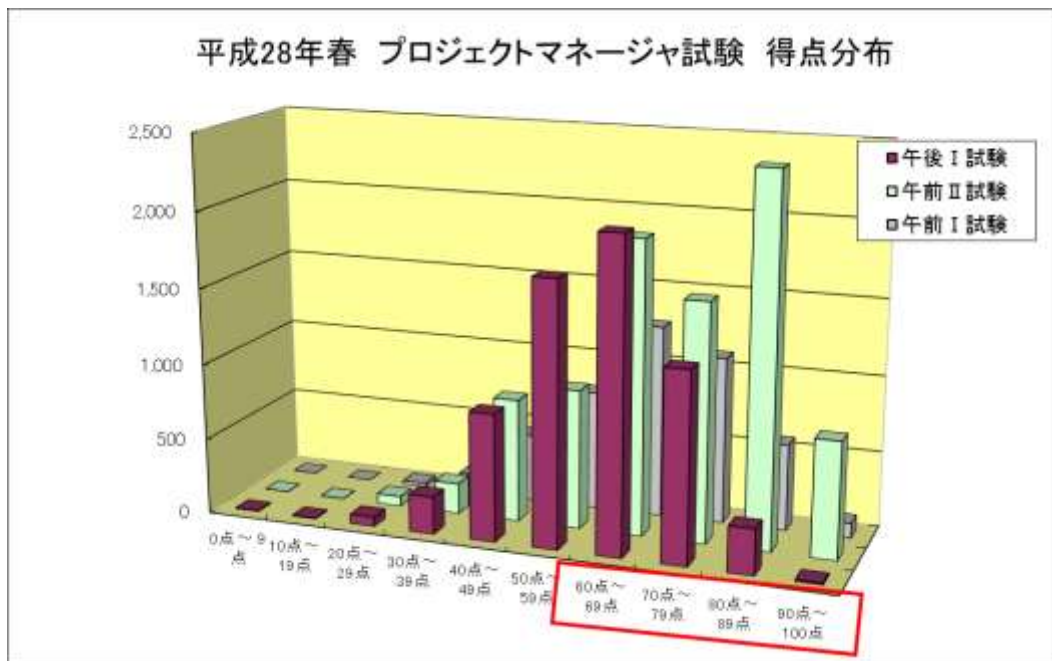
問2 情報システム開発プロジェクトの実行中におけるリスクのコントロールについて

プロジェクトの特徴、目標達成を阻害するリスクの兆候、顕在化する予想リスクと理由、予防措置、リスク対応計画、リスク予防措置の実施状況・評価、今後の改善点

〔平成28年春 プロジェクトマネージャ試験 スコア分布〕

得点	午前Ⅰ試験	午前Ⅱ試験	午後Ⅰ試験	午後Ⅱ試験	合格者
0点～9点	1	2	6	D 600	
10点～19点	0	2	6		
20点～29点	24	66	64	C 471	
30点～39点	127	204	249		
40点～49点	448	811	838	B 996	
50点～59点	784	916	1,727		
60点～69点	1,263	1,919	2,032	A 1,491	
70点～79点	1,097	1,560	1,242		
80点～89点	572	2,398	300		
90点～100点	100	766	14		
計	4,416	8,644	6,478		3,558
対前試験比率		195.7%	74.9%	54.9%	41.9%
午前Ⅰ免除者概算	5,847	57.0%			

合格者数	1,491	採点者数の割合	合格者数との差
午前Ⅰ60点以上合計	3,032	68.7%	1,541
午前Ⅱ60点以上合計	6,643	76.9%	5,152
午後Ⅰ60点以上合計	3,588	55.4%	2,097
午後Ⅱ-A評価	1,491	41.9%	0



新試験制度で春期の試験で午前 I 試験免除になった人がたくさん出ましたが、得点分布を分析してみると、今回午前 I 試験の免除者は概算で 5,847 人 (57.0%) おり、受験者の 6 割近くが午前 II からの受験となっています。

得点分布を分析してみると、高度系共通の午前 I 試験で基準点 (60 点) 以上の人は 3,032 人 (受験者の 68.7%) で、この結果は前回の 60.9% に比べてかなり増加しています。また、午前 II 試験で基準点以上の人は 6,643 人 (受験者の 76.9%) で、前回試験の 71.4% から 5% ほど増えています。問題の難易度は前回と大きく変わっていないと思われるので、試験対策がよく行われた結果と考えられます。

午後 I で基準点 (60 点) 以上の得点者は 55.4% で、前回試験の 56.5% に比べて微減です。また、午後 II で合格点の A 評価だった人は 41.9% で、前回試験の 42.6% と比べてこちらも微減です。例年どおりの結果だったといえます。

午後の試験で合格スコアに至らなかった方は、次回試験の対策として、専門知識分野で「午前試験で出題される知識の理解度をまず上げる」、その次に、「午後試験で必要とされている知識を題材として、さらに深く学習する」のがよいでしょう。

高度系試験は午後試験対策が合格の鍵を握っています。次回の試験対策は早めに始めてください。

(今回合格された人)

今回見事合格された方で、16 秋期試験で情報セキュリティスペシャリスト・ネットワークスペシャリスト・IT ストラテジスト・システムアーキテクト・IT サービスマネージャの試験合格を目指す方は、午前Ⅰ試験は免除になりますので、午前Ⅱの専門分野知識について、なるべく早く試験対策を開始してください。まずは各試験の専門分野の基本的な問題（応用情報技術者試験の問題）から解いてみましょう。

高度系種別を受験するにあたっては、出題範囲を網羅した通信教育の『スタンダード午前Ⅰ免除コース』がおすすめです。基礎から段階的に知識の積み上げを行いたい方には「書籍」「WEB教材」「WEBテスト」「公開模試」の合格のために必要な知識を体系立てて身に付けることが可能なコース学習『スタンダードコース』がおすすめです。

その他、学習にあたっては、午前試験対策に重点をおいた『宿題メール』。午後試験対策には、受験対策のプロ講師から直接学べる『合格ゼミ 午後試験対策セミナー』など、学習アイテムを豊富に取り揃えております。午前Ⅰが免除になり、かつこれまでの学習で身に着けた知識が鮮明なうちに次の資格試験にチャレンジすることが、合格への近道です。次のステップアップを目指しましょう。

(今回残念ながら不合格だった人)

まず、午前Ⅰの試験で 50 点に満たなかった人は、自分がよく理解していない内容について早めの学習が重要です。時間のない方は、「応用情報・高度共通 午前試験対策」の書籍を活用し出題ポイントと必須問題で効率的に学習を進めましょう。

今回の午前Ⅰ・Ⅱ試験の得点が 50 点～59 点だった方は、合格ラインまで“あと一歩”のところまで実力がついていきますので、身に付けた知識が薄れないうちに、早めに次回試験の対策として復習を行い、新たに加わった分野の学習を始めましょう。

午後試験の得点が 60 点未満だった方は、まず午前Ⅱの「専門知識」の内容に関して、試験問題を解答するのに必要な知識を確実に理解してください。なお、午後試験に強くなるには、時間を決めた問題演習やアイテックの模擬試験を会場で受験するなど、本番を想定した学習を行うのも効果的です。

再受験のための学習にあたっては、弱点補強中心に学習を行いたい方やすでに教材をお持ちの方はトレーニング問題とポイント解説、午後の音声講義によるポイント解説などの充実したコンテンツの『プラクティスコース』、講師から直接指導を受けることでその場で自身の弱点分野を把握、克服ができる『合格ゼミ 午後試験対策セミナー』がおすすめです。

その他、各種豊富な学習メニューを用意しております。

次回の試験から、情報セキュリティ分野について、午前試験では出題比率がさらに高まり、午後試験ではセキュリティ問題が必須になります。不足している分野の知識に加えて、セキュリティ知識の重点的な対策にコース教材を活用してしっかり補強し、次回合格を勝ち取りましょう。2016 年秋期試験対策の新しい書籍や研修案内については弊社のホームページからご覧ください。

<http://www.itec.co.jp>